

GPS・ソナー搭載、無人リモコンボート

安全、低コストで深淺測量

(株)地域開発 県内で初導入、3Dで正確なデータ



深淺測量用GPS・ソナー搭載無人リモコンボート



3Dレーザースキャナ計測

総合建設コンサルタントの(株)地域開発(中島一敏社長、本社・長崎市馬町)は昨年秋、県内で初めて「深淺測量用GPS・ソナー搭載 無人リモコンボート(RC—S3)」を導入した。11月6、7日の2日間、(公財)長崎県建設技術研究センターが開催した『ながさき建設技術フェア』で展示。複数の自治体や同業者からも好評を得るなど反応も上々だ。実際に見積りの依頼もあるという。

このリモコンボートは、全長120^{センチ}、幅25^{センチ}、重量16^{キログラム}と小型で、一人で運搬することができる。このため、有人ボートでは困難な浅瀬や危険水域での測量、調査が可能となり、座礁・転覆・転落事故の危険性がなくなった。コデン株(東京都豊島区)と国際航業株(東京都千代田区)が共同で開発。国土交通省の新技术情報(NETIS)に登録されている。

(株)地域開発の中島社長の説明によると、GPS・ソナー搭載のオールインワンで機材設置等の準備が不要。作業時間の短縮でコスト削減が実現できるほか、正確なデータ取得が可能。操船可能範囲800^{メートル}で、河川・ダム・湖沼・海岸・港湾等の水域部を安全に低コストで深淺を測量できる。

このほか同社は、地形や構造物等の三次元座標(点群)データを瞬時に取得できる『3Dレーザースキャナ計測』や、ひび割れ計測システム『KUMONOS(クモノス)』、高精度の赤外線画像解析システム『THERMO DELTA(サーモデルタ)』の普及にも力を入れている。

このうち『3Dレーザースキャナ計測』は、従来の光波測量機における単点での計測・測定・測量とは違って、点群データの高精度・連続高速取得により、対象物の面的な計測が可能だ。

ひび割れ計測システム『KUMONOS(クモノス)』は、クラックの幅と長さを計測。45^{センチ}先の0・2^{ミリ}幅まで計測でき、建物だけでなく、橋脚やダムの躯体など、土木構造物の管理にも役立つ。『THERMO DELTA(サーモデルタ)』と組み合わせ、5段階で落下危険度を判定し、優先箇所をピ

ンポイントで特定できるのが特徴だ。悪い部分にのみ足場をかけることなどで、高精度の耐震診断やコスト削減につながる。

建設新聞社の取材に対し、中島社長は「事故につながらないような『見える管理』が最も重要だ。通常の公共測量だけでなく、安心・安全のため、守る測量を積極的に提案していきたい」と抱負。同社は『人・街・自然環境にやさしい “もっと安全・安心の明日のために、”』をモットーに全力で取り組んでいる。

問い合わせは、(株)地域開発 (TEL095・820・8430)。担当の原口さんまで。

(平成27年1月9日付け)

印刷する

Copyright (C) kensetsu-news All rights reserved.